

鶴群

釧路市タンチョウ鶴愛護会発行

(題字：加藤秋霜氏) <皇太子殿下御歌碑より抜粋>



今年の夏も暑かった！30℃以上など当たり前。35℃を上回ることも少なくありませんでした。北海道は涼しいと思って来たのに...と観光客も嘆くほどでした。そんな暑い日々も過ぎ去り、霜が降りるほどの冷え込みとなりました。季節は巡りますね。

野生のタンチョウが、収穫の終わった畑などで過ごしている姿が見られ、ツルセンターのビオトープにも飛来することがあります。飼育のタンチョウやマナヅルが間近で見られるとはいえ、やはり少し距離があっても野生のタンチョウが飛来していると来館者の喜びもひとしおです。冷え込みが厳しくなり雪が降ると、いよいよ給餌が始まります。タンチョウの飛来が楽しみです。

祖父の志を受け継いで

釧路市タンチョウ鶴愛護会 副会長 吉田 勝幸

私の祖父・吉田勝美は、釧路市タンチョウ鶴愛護会（旧・阿寒町タンチョウ鶴愛護会）の初代会長を務めました。

当時はまだタンチョウの数も少なく、保護活動の体制も十分ではない中で、祖父は行政や地域の有志と連携し、会の基盤づくりや支援の輪の拡大に力を注ぎました。人とタンチョウが共に生きる地域を目指し、その思いを多くの仲間へと伝えていったと聞いております。

昭和四十年代、祖父のインタビューが新聞に掲載され、「全国から支援の手」「活動に参加することが最大の特典」と語った言葉が残っています。その姿勢は、まさに地域の力を信じ、協働の輪を広げていく愛護会の原点だったと思います。

私もその志を受け継ぐ一人として、これからの時代に合った形で活動을続け、阿寒の自然とタンチョウの共生を未来へつないでまいりたいと思います。

ツルセンターだより

阿寒国際ツルセンターの裏に広がるビオトープではたくさんの夏鳥がやってきて、新たな命を生み育て、愛らしい姿を見せてくれていました。そんな素晴らしい環境を舞台に、今年も様々なイベントが実施されました。

雪が融け、緑が増えてきた頃ビオトープ内には可愛らしい花々と共に、山菜が顔をだし始めます。これらを使って何かイベントができないかと常々考



えており、5月18日に植物観察会～山菜編～がようやく実現しました。

シンキング釧路の代表 澤崎裕康氏による山菜の見分け方、来年以降も楽しめる採り方などを学びました。ビオトープにはコゴミやフキの他、ギョウジャニンニク、セリ、ミツバなど意外に食べられる山菜がたくさん生えていることが分かりました。似ている毒草もあるた

め、見分け方もしっかり教えてもらいました。

山菜の採取後は、丹頂の里内にあるキャンプ場へ移動し、調理をしました。参加者の中には小学生や幼児もいたので、山菜の下処理などを体験してもらい、お浸しやきんぴら、味噌汁などを作りました。各自で持参頂いたおにぎりと共に、自分で採った山菜を自然に囲まれた環境で食べるという非常に贅沢なランチを楽しんで頂きました。



のため中止となりました。

早朝バードウォッチングは河原で野鳥の声を聞きながら朝食を楽しむという特別な内容も取り入れているため、とても人気のプログラムです。釧路市内外、北海道外からの参加もあり、更に小さなお子様が野鳥ばかりではなく虫やオタマジャクシ、小魚などを観察して楽しむ場面もあり、年齢を問わず皆さんが楽しめるイベントとなりました。



5月31日から6月8日の9日間で、昨年に続き第二回目となる阿寒バードフェスティバルを開催致しました。昨年は6月末から7月にかけての開催でしたが、野鳥の繁殖状況や木々の繁茂状況を考慮して、開催時期を早めました。

期間中の土日2回に加えて平日にも早朝バードウォッチングを設定しましたが、平日は残念ながら雨



6月1日にはキッチンカーや屋台などのご協力を頂き「さえずりガーデン」としてエントランスで飲食を楽しむスペースを作りました。お天気にも恵まれ、バードフェスティバルの参加者だけでなくツルセンター見学に来られた一般観光客にもご利用頂きました。昨年に続きさえずりガーデンは1日のみでしたが、この先バードフェスティバル参加者が増加した際には期間中開催できると良いですね。

ワークショップの一つとして、エゾフクロウのペリットの解体そして観察をしました。ペリットとは、鳥が食べて消化しきれなかったものを口から吐き出された塊のことです。自然観察会やタンチョウの撮影によくいらっしゃる常連のカメラマンが持ってきてくださったペリット。参加者それぞれ一つずつ、少量の水をかけながらピンセットで解体していきます。すると骨や歯、羽などが出てきてフクロ



ウが何を食べたのか、おおよその予測ができます。ネズミが一番多く、おそらくリスと思われる骨や歯が出てきたペリットもありました。また、小鳥の羽や骨が出てきたペリットもあり、参加者は驚きや感心の声を上げ、とても勉強になり興味深いものだと高い評価を頂きました。ペリットは自然下で収集したものであるため入手が確実ではありませんが、今後も続けたいイベントです。

また、昨年に続いて今年も野鳥の解剖見学を実施しました。釧路市立博物館で保管されていたハタカが、釧路市動物園の学芸員で獣医師の資格を持つ吉野氏によって解剖されました。

出血痕から死因は衝突によるものと、解剖によってある程度の特定ができます。筋肉や内臓など、体の仕組みについても学ぶことができ、参加者は大変興味深く見学をしていました。



解剖の後、薬剤と綿を詰めて縫合し、仮はく製を作りました。このように命を落としてしまった野生生物を解剖し、命を落とした原因を突き止め、はく製という形で新たな命を吹き込みじっくり観察することも大切な事だと思います。研究施設ならではのプログラムですね。

こうしてペリット解体や解剖など、コアな層が喜ぶプログラムと共に、一般の大人から子どもまで楽



しむことができるプログラムも、もちろん設定しました！昨年も大人気だった、タンチョウのエサ捕り＆エサやり見学です。

ビオトープに流れる小川に入り、小魚やザリガニ、水生昆虫などを捕まえました。子ども達は水に入って遊ぶのが楽しくて大はしゃぎ！網で泥を掬って、少しずつ洗い出していくと中から虫やヨコエビ等が現れます。大きなザリガニを捕った人は、も



はや勇者です！普段、水に入って遊ぶ機会など少なくなった現代の子ども達には良い経験だったと思います。楽しんでいたのは子ども達だけではありません。数十年前に子どもだった人たちも、昔にタイムスリップしたように楽しんでいました。小さい頃は魚捕りが得意だったと、とても上手に小魚を網で掬い取る人もいて、楽しみながらタンチョウのエサを捕るという素敵な時間を過ごしました。

最後に、飼育場のタンチョウ ムックのケージへ移動して、飼育員さんに捕ってきたエサを託して与えてもらいました。一番喜んで食べたのは何かな？タンチョウの好物は？あまり食べなかったのは何だろう？目の前でタンチョウの食べている姿を見てもらい、じっくりと観察してもらいました。

参加者の中には、旅行中の関東方面のご家族もいました。小川に入って作業をするなど、関東では経



験する機会がないので是非子どもに体験させたいとご両親。今後のこのイベントは、そのような旅行中の方々にも気軽にご参加頂けるような形にできたらと思っています。

バードフェスティバルでのバードウォッチングは早朝に行いましたが、毎月1回行っている自然観察会は9時からです。参加費は入館料のみとなっているため、気軽にご参加頂けます。毎月必ず参加し

してくださる常連さんや、旅行中のお客様など様々な鳥好きさんにご利用頂いております。季節ごとの野鳥を楽しみ、また木々や花なども蕾から花そして種となる過程を毎月楽しく観察しています。

更に、7月には夜の自然観察会も実施しております。夜行性の動物や鳥類、メインはホタルです。ビオトープで確認しているのはヘイケボタル。小さくて光も弱々しいのですが、その小さな光が幻想的な



のです。それらの生き物を観察することが一番の目的ですが、夜のビオトープを歩くワクワク感もまた楽しく、今年はたくさん子ども達も参加してくれました。

毎月の自然観察会や夜の観察会などの日程は都度、ツルセンターのホームページや Facebook、Instagram にて掲載しておりますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。



タンチョウ 豆知識



釧路市動物園 ツル担当学芸専門員

吉野 智生

天高くツル肥ゆる秋

やたらと暑かった夏が過ぎ、いつの間にか冷え込む季節になってきました。秋は割と空気が乾燥し、大気中のチリが少ないので青く、高く見えると言われます。そんなことはさておき、道路わきでタンチョウを群れで見かけることが増えてきました。

タンチョウは春先に縄張り内に巣を作り、卵を産んで子育てをします。ヒナが無事に育つと、夏ごろには飛べるようになり、移動範囲が広がってきます。そして秋、周りのコーン畑や牧草畑では刈り取りが進み、こぼれた餌や、草の合間にいる虫が見つかりやすくなります。タンチョウは雑食なので、様々なものを食べます。カエルやザリガニ、ネズミ、



昆虫もそうですし、こぼれたコーンや、どんぐり、草の根や実なども食べます。酪農家に行って、たい肥山でミミズや昆虫を探すものや、牛舎に入り込んで餌を盗み食いする困ったやつも中にはいます。一度味を占めると繰り返し実行するようになるので、割とちゃっかりしているというか、図々しいというか。よ

く言えば応用、適応力があるとも言えます。学習能力があるとも言えますので、繰り返し追い払うとか、入り口をきちんと閉めておくとか、手間のわりに実入りが少ないと思わせる必要があるでしょう。食べ物への執着は侮れません。

タンチョウは図鑑的には体重が 6～10 kgと言われます。幅があるのは、まずオスとメスで体格に差があるのと、季節によって変動するからです。夏と冬では 1～2 kgの差があります。実際、死亡個体を解剖してみると、皮下脂肪や内臓脂肪のつき方が全然違い、体重は 11 月、12 月の個体が一番重くなります。越冬地への移動や、来る寒さに備えて、秋は太る時期なのです。飼育個体も秋はよく餌を食べるようになります。厳しい冬を乗り越えるには多くのエネルギーが必要なのでしょう。なお、年が明けると春に向けて体重は少しずつ減少し、繁殖を終えて夏が一番軽くなります。人間はこんなに簡単に体重の増減はしませんので、少し羨ましいところ。え、運動しろ？そうですね。失礼しました。

お知らせ

鶴クイズ

今年も鶴クイズを実施します！

◆応募方法◆

ハガキまたは F A X に答えと住所・氏名・年齢・職業・郵便番号・電話番号を明記し、下記へお送りください。釧路市タンチョウ鶴愛護会のホームページからもご応募頂けます。

◆応募締切◆

2025年12月20日（金）当日消印有効

◆当選発表◆

2026年1月上旬に、阿寒国際ツルセンターとタンチョウ観察センター及び愛護会ホームページに掲載いたします。



第14回タンチョウフォトコンテスト

阿寒国際ツルセンターでは、阿寒国際ツルセンターで撮影したタンチョウをテーマとしたタンチョウフォトコンテストの作品を募集しております。応募締め切りは12月20日まで。（当日消印有効）応募作品をタンチョウ観察センター内に掲示し、来館者の投票により順位を決定致します。入賞作品は、オリジナルフレーム切手として販売されます。

応募要項は阿寒国際ツルセンターホームページまたは阿寒国際ツルセンター等に設置の応募用紙にてご確認ください。（<http://aiccgrus.wixsite.com/aiccgrus>）



ライブカメラがはじまります



今年も11月上旬よりライブカメラの配信を予定しております。今年度からは本館ビオトープ側のカメラのみとなります。例年タンチョウの飛来が始まるのは12月上旬くらいとなります。タンチョウの様子を、釧路市タンチョウ鶴愛護会のホームページより観察することができます。是非ご覧ください。



丹頂感謝祭2026、鶴酒たしなむ会が開催されます



2026年2月1日に丹頂感謝祭2026を開催することが決定致しました。タンチョウへの感謝の意を込めて祝詞をあげる感謝祭をはじめ、生涯を添い遂げるタンチョウの前で愛を誓う丹頂結婚式やワークショップ、子ども縁日のほか、キッチンカーなどが集まり食を楽しむこともできます。雪像コンテストも開かれ、沿道に並んだ雪像



への審査はご来場されるお客様にお願いしております。様々な楽しみがありますので、是非ご来場ください。

また2月7日には鶴酒をたしなむ会を予定しております。銘柄に「鶴」がつく、全国から集まった酒を楽しめます。先着順でのご参加となりますので、申込が始まりましたらお早めにご予約ください！

傷病タンチョウを発見した時

秋も深まり牧草地や収穫を終えた畑などで採餌しているタンチョウの家族の姿をよく見かけますが、飛翔能力が未熟な幼鳥などは風に煽られて電線に衝突したり、車両との衝突事故などで傷を負ってしまうことも少なくありません。また高病原性鳥インフルエンザも各地で発生が確認されております。もし傷を負っていたり、うずくまっているようなタンチョウを発見した際には近づいたり触ったりせずに、下記へのご連絡をお願い致します。

環境省釧路自然環境事務所 電話番号 0154-32-7500

釧路市タンチョウ鶴愛護会事務局 〒085-0245 釧路市阿寒町上阿寒 23-40 阿寒国際ツルセンター内 河瀬
TEL(0154)66-4011 FAX(0154)66-4022 E-mail:mail@946tanchou-aigokai.com HP:http://946tanchou-aigokai.com/
